

平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月7日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4572 URL http://www.carnabio.com
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)吉野公一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長 (氏名)相川 法男 (TEL)078-302-7075
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日~平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	460	△17.9	△411	—	△388	—	△390	—
25年12月期第3四半期	560	51.3	△210	—	△191	—	△195	—

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 △339百万円(—%) 25年12月期第3四半期 △151百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	△47.15	—
25年12月期第3四半期	△25.97	—

(注) 当社は、平成26年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式の分割を実施しております。そのため、1株当たり四半期純利益につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第3四半期	1,647	1,304	78.6
25年12月期	1,888	1,597	84.1

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 1,295百万円 25年12月期 1,587百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年12月期	—	0.00	—		
26年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日~平成26年12月31日)

当期の連結業績予想につきましては、従来、創薬事業において、当社研究テーマの大手製薬企業等への導出一時金収入等を想定して売上高予想を記載しておりましたが、本予想数値の公表が当社創薬事業の導出活動における最大価値創出の阻害要因として作用することが想定されることから、平成25年12月期決算短信より、次期の当社グループの業績予想は創薬支援事業の数値(売上高831百万円(対前期比7.7%増)、営業利益191百万円(対前期比23.1%減))のみ公表することといたしました。それに伴い、全社の業績予想についても記載しておりません。なお、直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社 (社名) 、除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

26年12月期3Q	8,318,100株	25年12月期	8,265,000株
-----------	------------	---------	------------

② 期末自己株式数

26年12月期3Q	—株	25年12月期	—株
-----------	----	---------	----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

26年12月期3Q	8,275,974株	25年12月期3Q	7,532,396株
-----------	------------	-----------	------------

(注) 当社は、平成26年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式の分割を実施しております。そのため、平成25年12月期の期末発行済株式数及び期中平均株式数につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定してそれぞれ算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、本四半期決算短信 (添付資料) 3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国において緩やかな景気回復基調が継続するとともに、円安の為替相場等により国内における一部の企業収益に改善傾向がみられるものの、中国やその他新興国における成長の鈍化、ユーロ圏における経済の停滞、さらに国内における消費増税後の個人消費の落ち込み等により、先行き不透明な状況で推移いたしました。当社グループが属する製薬業界におきましては、医療制度改革や大型医薬品の特許切れに伴うジェネリック医薬品への代替促進等によって大手製薬企業における収益悪化が懸念される状況が継続しており、それに伴いいわゆるオープンイノベーションが推進されるなかで、新薬候補パイプラインの導入ステージの早期化や有望なパイプラインを保有するバイオベンチャー企業との提携や買収等を積極的に展開する経営方針となって現れてきております。

このような外部環境の中、当社グループは、キナーゼ創薬に係る創薬基盤技術を核とした創薬支援事業並びに創薬事業を積極的に展開し、事業の拡大を図ってまいりました。

セグメント別には、創薬支援事業におきましては、北米地域での売上を拡大するべく学会や展示会等へ積極的に参加し当社製品、サービスの認知度向上に取り組むとともに、提案営業を推進し、学術支援活動を展開してまいりました。製品別には、キナーゼタンパク質製品やプロファイリング・スクリーニングサービス等の既存製品、サービスの拡販に取り組むとともに、それら既存製品、サービス、新しいRPPAサービスならびにその他セルベースアッセイサービスを組み合わせ付加価値の高いソリューションの提供体制の構築を進めてまいりました。さらに、創薬事業におきましては、重点疾患領域であるガン領域を中心としたキナーゼ阻害薬の研究開発を積極的に推進するとともに、当社研究テーマの導出活動を戦略的に展開してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は460百万円（前年同四半期比17.9%減）、営業損失は411百万円（前年同四半期は210百万円の損失）、経常損失388百万円（前年同四半期は191百万円の損失）、四半期純損失390百万円（前年同四半期は195百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は次の通りです。

①創薬支援事業

キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービス及びセルベースアッセイサービスの提供等により、創薬支援事業の売上高は460百万円（前年同四半期比17.9%減）、営業利益は51百万円（前年同四半期比73.9%減）となりました。売上高の内訳は、国内売上は247百万円（前年同四半期比20.2%減）、北米地域は142百万円（前年同四半期比7.5%減）、欧州地域は58百万円（前年同四半期比32.9%減）、その他地域は11百万円（前年同四半期比33.8%増）であります。

②創薬事業

当第3四半期連結累計期間の創薬事業において、売上高の計上はなく（前年同四半期は売上高の計上なし）、営業損失は462百万円（前年同四半期は407百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

	前連結会計年度末	当第3四半期 連結会計年度末	増減
総資産 (百万円)	1,888	1,647	△241
純資産 (百万円)	1,597	1,304	△293
自己資本比率 (%)	84.1	78.6	△5.5

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,647百万円となり、前連結会計年度末と比べて241百万円減少しました。その内訳は、現金及び預金の減少264百万円、売掛金の減少39百万円、投資有価証券の増加77百万円等でありま

す。負債は343百万円となり、前連結会計年度末と比べて51百万円増加しました。その内訳は、長期借入金の増加27百万円、繰延税金負債の増加27百万円等であります。

純資産は1,304百万円となり、前連結会計年度末と比べて293百万円減少しました。その内訳は、四半期純損失390百万円の計上、資本金の増加24百万円、資本剰余金の増加22百万円、その他有価証券評価差額金の増加50百万円等であります。

また、自己資本比率は78.6%（前連結会計年度末は84.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年2月7日公表の「平成25年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載の平成26年12月期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しております。

当該重要事象等を解消するために、当社グループは、創薬支援事業においては更に拡販に努めることで売上の上積みを図るとともに、創薬事業においては研究開発をさらに推し進め、新薬候補化合物を製薬企業等に導出することで契約一時金等の収入を獲得してまいります。さらに、研究開発の効率化及び諸経費の節減等により販売費及び一般管理費の圧縮に継続的に取り組んでまいります。

以上により、早期の全社業績の黒字化を達成し、当該重要事象等が早期に解消されるよう取り組んでまいります。なお、当社グループは事業活動を継続するための十分な手元資金を保有しております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,067,570	803,332
売掛金	119,877	79,978
商品及び製品	97,076	93,454
仕掛品	6,106	10,497
原材料及び貯蔵品	15,443	18,342
その他	54,960	44,330
流動資産合計	1,361,035	1,049,934
固定資産		
有形固定資産	36,168	59,040
無形固定資産		
のれん	245,090	217,858
その他	36,547	32,032
無形固定資産合計	281,637	249,890
投資その他の資産		
投資有価証券	192,805	270,793
その他	17,328	17,959
投資その他の資産合計	210,134	288,752
固定資産合計	527,940	597,683
資産合計	1,888,976	1,647,617

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,216	4,317
短期借入金	-	10,000
1年内返済予定の長期借入金	36,072	38,928
未払金	51,596	34,003
未払法人税等	10,085	4,326
その他	27,842	35,690
流動負債合計	129,813	127,266
固定負債		
長期借入金	104,462	131,680
繰延税金負債	30,541	58,020
資産除去債務	24,196	24,557
その他	2,100	1,575
固定負債合計	161,299	215,833
負債合計	291,113	343,100
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,602,728	2,627,070
資本剰余金	1,422,375	1,445,230
利益剰余金	△2,489,364	△2,879,607
株主資本合計	1,535,739	1,192,694
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48,887	98,983
為替換算調整勘定	3,323	3,550
その他の包括利益累計額合計	52,211	102,533
新株予約権	9,911	9,289
純資産合計	1,597,862	1,304,517
負債純資産合計	1,888,976	1,647,617

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	560,954	460,633
売上原価	164,477	168,769
売上総利益	396,476	291,863
販売費及び一般管理費	607,198	703,498
営業損失(△)	△210,721	△411,635
営業外収益		
受取利息	175	183
補助金収入	26,349	24,800
為替差益	6,381	152
その他	618	1,106
営業外収益合計	33,524	26,242
営業外費用		
支払利息	1,464	1,693
支払保証料	-	1,528
株式交付費	2,953	342
新株予約権発行費	9,355	-
その他	610	-
営業外費用合計	14,384	3,564
経常損失(△)	△191,582	△388,957
特別損失		
固定資産除却損	123	-
減損損失	2,384	-
特別損失合計	2,508	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△194,090	△388,957
法人税、住民税及び事業税	1,758	1,486
法人税等調整額	△217	△201
法人税等合計	1,540	1,285
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△195,630	△390,242
四半期純損失(△)	△195,630	△390,242

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△195,630	△390,242
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38,863	50,095
為替換算調整勘定	4,987	226
その他の包括利益合計	43,850	50,322
四半期包括利益	△151,779	△339,920
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△151,779	△339,920

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	創薬支援事業	創薬事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	560,954	—	560,954
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	560,954	—	560,954
セグメント利益又は損失(△)	196,705	△407,427	△210,721

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、「創薬事業」に係る減損損失2,384千円を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	創薬支援事業	創薬事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	460,633	—	460,633
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	460,633	—	460,633
セグメント利益又は損失(△)	51,355	△462,990	△411,635

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。